

授業概要

企業価値向上と財務リスク管理が企業経営の重要な機能であることを認識できるように、企業戦略・企業分析・資本市場・投資家動向を通して企業財務の多面的で深い理解が得られることを目指して講義をおこないます。「経営財務論Ⅰ」での企業財務の基本的な理解を踏まえて、実際の企業活動を支える企業財務の観点から各要素について狭義のファイナンスに限定しないで具体的に説明します。

授業計画

第1回	資本構成の実際1（株主資本コスト、レバレッジ、収益分解、成長のための資本）
第2回	資本構成の実際2（バランスシート管理、倒産リスク、守りの資本構成、事業流動化）
第3回	ペイアウト政策（投資との選択、自己株買いとの比較、企業成長とのバランス）
第4回	デットファイナンス（融資と社債、デットストーリー、起債プロセス）
第5回	エクイティファイナンス1（普通株PO、エクイティストーリー、発行プロセス）
第6回	エクイティファイナンス2（IPO、上場プロセス、プレイヤーの行動、上場後の株式）
第7回	デットとエクイティの中間ファイナンス（優先株、劣後債、優先出資証券、格付け）
第8回	デリバティブの活用（個別ヘッジ、マクロヘッジ、ALM、年金債務移転）
第9回	国際財務（グローバル企業の財務戦略）
第10回	M&A1（企業戦略との関係、種類、クロスボーダー取引、ファイナンス、規制）
第11回	M&A2（M&Aからの防衛、実例）
第12回	投資家への対応（機関投資家・個人投資家・アクティビストそれぞれへの対応）
第13回	コーポレートガバナンス1（コーポレートガバナンスコード、守りの側面）
第14回	コーポレートガバナンス2（成長との関連、攻めの側面）
第15回	まとめ（補足説明、要点整理、演習）
第16回	期末筆記試験

到達目標

以下の目標を設定します。

1. コーポレートファイナンスの知見を実際の企業分析に適用できる
2. 様々な各企業活動における最適なファイナンスを選択できる
3. 企業価値評価の手法を具体的な企業に適用し分析できる
4. 財務リスク管理の重要性を理解し、その手法を説明できる

履修上の注意

「経営財務論Ⅰ」の履修を前提とした内容です。また、「証券市場論」を履修しておくことが望ましいです。わからない用語は必ず調べて曖昧にしないことを心掛けてください。なお、スケジュールは状況次第で変更し得ることをご理解ください。

予習・復習

復習が重要です。復習と課題提出に尽力してください。また、日本経済新聞はできるだけ毎日読んで、本講義と関連付けて理解を深めてください。

評価方法

期末筆記試験 70%、毎講義後の課題 30%で評価します。

テキスト

資料を用意します。